

平成 23 年度 新学術領域研究（研究領域提案型） 審査結果の所見

研究領域名	ゲノム・遺伝子相関：新しい遺伝学分野の創成
領域代表者	高山 誠司（奈良先端科学技術大学院大学・バイオサイエンス研究科・教授）
研究期間	平成 23 年度～平成 27 年度
科学研究費補助金審査部会における所見	<p>本研究領域は、個々の遺伝子のはたらきをゲノムの中でのふるまいとして捉えようとする試みで、従来の古典的遺伝学の枠をこえて、エピジェネティック制御、インプリント遺伝子制御、遺伝子重複・多様化といった「ゲノム・遺伝子相関」の視点によって明らかにしようとするものであり、新たな学術領域を創出し、将来性も期待できると評価できる。メンバーは動物・植物の枠にとらわれず、哺乳類、植物、魚類、昆虫など幅広い対象を研究する、実績と経験のある研究者が配置され、実現可能性も高いものと評価できる。総括班では機器整備とアウトリーチ・シンポジウムを企画するなど情報発信を計画しており妥当である。その一方で、理論科学者や遺伝医学者などが加わることにより、さらに大きな相互作用が見込め、新しい学問領域を生み出せる可能性が高まると思料される。</p>